

第1号議案 2022年度（第9期）の活動を振り返って（案）

1、はじめに

コロナ禍もワクチンの普及や重症率の低下等を受けて、経済活動の拡大に舵を切り、同友会活動においても感染対策を徹底した上でのリアル開催や会員訪問を実施できる状況となりました。一方で2021年度の振り返りにも記載した国際情勢の先行き不安が引き続いており、経済活動や安全保障に影を落としています。

同友会では、「1社もつぶさない」を合言葉に、会員同士が励まし助け合いながら、同友会活動と経営の不離一体を旨として活動を続けています。

2022年度の支部活動として特筆すべきは、①年間計画の段階で例会や学習会の目的や位置付け、担当者を明確にしたことにより、今までと比較して各行事の作り込みや運営に良い結果をもたらした点、②青年部会活動やフォーラム実行委員会への積極的な参加が徐々にではあるが見られるようになったこと、③例会と学習会において、行政や金融機関による報告の機会をつくることのできたこと、等が挙げられます。

2、「お互いの経営体験の交流の場の充実」を

振り返って

例会について、計画したスケジュールをほぼ達成することができました。会員の参加率30%はクリアしたものの参加者が固定メンバー化しており、全会員への拡がり課題です。ゲスト参加者については0名の場合もあり会勢拡大のためにも対策が急務となります。例会後の幹事会では、「内容が良かったのに、これだけの人数ではもったいない」の声が良く聞かれますので、多くの方に参加してもらうことが望まれます。

9月に青年部会との合同例会を高鍋町にて開催しました。青年部会から多数の参加があり、参加者60名（内ゲスト2名）での開催ができました。丁寧な作り込みがされており、ひむか支部として今までにない参加者数での開催で学びも大きかったです。しかし、ひむか地域からのゲスト参加を増やす努力が足りませんでした。

2021年度から継続して開催しているSDGsの学習会について、最低必要人数が確保できないことで中止、他の行事へと振替になりました。地域のニーズに合ったテーマ設定、参加呼びかけの手法、思いの伝え方等、2023年度に向けて見直す必要があります。

また、年間スケジュールにおいて随時開催としていた行事、特に新会員オリエンテーションの開催が後回しとなっ

ているため、実施時期や方法を見直す必要があります。

3、「経営指針の成文化と実践の推進」を

振り返って

経営指針をつくる会《理念編》に0名、経営指針をつくる会《方針・計画編》に1名（目標各2名以上ずつ）が受講をしました。知り合う会等で経営指針経営について、学ぶきっかけづくりをする計画でしたが、報告者の背景を知ること重点が絞られ、経営指針経営を学ぶきっかけとまでは至りませんでした。コロナ禍において、経営指針経営の体験報告をオンライン等で実施する計画でしたが未実施でした。経営指針の大切さとその実践を伝える場づくりが課題です。

4、「地域に若者を残す活動の推進

－採用し、共に育つ企業づくり」を振り返って

2022年度宮崎同友会の共同求人活動への参加企業は支部内参加目標1社以上に対して0社でした。各会員への共同求人活動に対する認識はどの程度であるか？認識を高める場があったか？等、今後に向けた課題です。人が足りないと悩む会員はとて多いですが、共同求人には参加しないというギャップが存在するのが実態です。

ひむか支部初の試みとして、宮崎北高校1年生とのSDGsをテーマとした地域探求連携事業にひむか支部から6社（うち1社は高鍋信用金庫）の参加がありました。初めての開催ということもあり、企業側・学校側ともに手探りではありましたが、他校も含め、今後更に発展させて地元中小企業の存在感を高めていく必要があると感じました。

新富町ルピナス支援学校の見学会に会員5名が参加しました。それぞれの企業が障がい者雇用に向けてどう取り組むべきか考える良い機会となりました。

5、「会員の参加率の向上」を振り返って

支部会員の参加率目標30%に対して、4回の例会を通して参加率が35.4%でした。支部会員の参加率は、さらなる向上を目指し、各会員が皆でゲストを誘っていく循環をつくりたいと考えます。

景況調査の回答状況については、4-6月期/13件40.6%、7-9月期/9件29.0%、10-12月期/13件41.9%、1-3月期/12件38.7%でした。分母が少ないひむか支部ですので、毎回10件以上の役員からの個別での呼びかけが回答率に影響していると思われます。回答率50%を目指して丁寧に呼びかけを続ける必要があります。

第31回みやぎ中小企業経営フォーラムでは、会員の参加は16名51.6%と過去と比較して良い参加率でした。要因は会歴の浅い会員の参加率向上にあります。フォーラムの中身が上手く発信されたこと、フォーラム実行委員からの直接の呼びかけが大きかったと思われます。

LINE等でも案内を行っていますが、反応があまり無いように感じられます。十分な情報発信ができていない、等の不備・不足も1つの要因です。また、地区活動等の小グループ活動を充実させることで、きめ細やかな声掛けが推進できると考えられますので小グループ活動の継続発展も必要と考えます。

6、「産学官金および他団体との連携の強化」を振り返って

地元金融機関の高鍋信用金庫から報告者を招いての例会を開催することができました。

関連して3. で述べた宮崎北高校との地域探求連携事業にも高鍋信用金庫の参加協力を得られました。高鍋信用金庫及び高鍋信用金庫が開催している次世代経営者の会と様々な事業で連携を図るきっかけとなる1年でした。

地元商工会議所、商工会、JC、ロータリークラブ等には行事の案内を継続していますが、特に関係づくりが進んだとはいえません。これまでの経緯や窓口を整理して、今後の交流の深化につなげていきましょう。

学校関係や行政との関係づくりをこゆ財団との交流を通してやっていこうと計画しましたが、2022年度は目に見える進展はありませんでした。

7、「全国へ学びの視野を広げる」を振り返って

全国規模や九州規模の行事への参加者は、年間通して延べ5名でした。

参加報告を発表する場を設けて、会員による成果の共有や参加への関心を高める工夫が必要だと考えます。

8、「ひむか支部地域内での会員の組織率を高める」を振り返って

2022年度32名からスタートしたひむか支部でしたが、2名(6.3%)の入会、2名(6.3%)の退会があり、増減なしの32名で2022年度を終えました。

例会のゲスト参加率(例会1回当たり約2名)となっており会員外の方への広がりには欠けている現状です。2022年度は、第31回みやぎ中小企業経営フォーラムを増強の中心に据えた活動の結果、参加者の内1名が入会となりました。フォーラムへのゲスト参加者増が今後の支部会員増につながることを改めて実感させられました。

現在、組織率が特に低い西都地区での会員増強への取り組みについて、当地の他団体との交流計画をしていましたが、2022年度において実現に至っていません。2023年度以降他団体との交流も視野に入れて活動を展開していきましょう。

現会員の学びのニーズに応える内容になっているか？地域の事業者から求められる内容になっているか？地域課題の改善に資する内容になっているか？等、支部活動のビジョンや在り方の再確認が必要ではないかと思われます。また、会員企業が目を引く存在になっているか？も重要な要素であると考えます。

9、「同友会活動の推進を支える体制を強固にする」を振り返って

ひむか支部運営を担う人材、そして、県理事候補の育成について、青年部会やフォーラム実行委員会への参画も活用していくことに関しては進展がありました。また、委員会活動について、会員の参加は低調なままです。①各企業のニーズから委員会活動へと誘導する、②自社の問題点を解決する手がかりを得る為の動機付けとする、等の場づくりが必要と考えます。

会内キャリアパスの策定も一つのアイデアとして検討する必要ではないかと考えます。

10、「5年後のひむか支部のビジョンを描く」を振り返って

第9期幹事会では、会員数増強、フォーラムへの取り組み等話しあってきました。2023年度は、ビジョンづくりにも取り組んでいきましょう。

2027年3月末の目標指標(会員85名、経営指針経営実践企業30%、黒字企業60%以上)の進捗については、設定の見直し、どのように数値を確認するか検討していきましょう。

ひむか支部 第9期(2022年度)活動の記録

1. 支部会員数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月初会員数	32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	31	32	
入会数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
退会数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

* 期末会員数32名

2. 例会等の開催

第9回定時総会

5月18日(初) 萩四季亭で 19名
内訳：ひむか9名(28.1%)+他支部1名+来賓3名+
金融機関6名

6月学習会

6月14日(火) 新富町総合交流センターきらりて 37名
「私たちの未来、人口減少社会は可能性と希望に満ちている」

高鍋町 町長 黒木敏之氏

(株)黒木本店 代表取締役会長・ひむか支部)

内訳：ひむか12名(38.7%)+他支部11名+ゲスト14名

8月例会

8月30日(火) 高鍋町中央公民館で 23名
「強靱な企業づくりと地域づくりにいま企業家が金融機関と連携して取り組めること」

高鍋信用金庫 常務理事 近藤真司氏

宮崎県中小企業家同友会 代表理事 那須久司氏

(株)おりなす建材 代表取締役・県北支部)

(株)ひよっとこ堂 代表取締役 田中陽一氏

内訳：ひむか14名(43.8%)+他支部5名+ゲスト1名+
会員企業1名+金融機関2名

ひむか支部&青年部会合同9月例会

9月30日(金) 萩泉屋+Zoom会議で 60名
「全社一丸となつてつくる10年ビジョンとは?~九州
沖縄ブロック2030 vision 作成過程で気付いたこと~
(株)キューケンシステム 代表取締役社長 穴井憲一郎氏
(熊本同友会)

内訳：ひむか13名(41.9%)+青年部会16名+
他支部17名+他県同友会11名+ゲスト2名

11月例会

11月28日(月) 萩泉屋で 15名
「業界の常識を吹き飛ばせ!~若者が魅力を感じる企業
づくり~」

(株)中岡工業 代表取締役 中岡登志氏

内訳：ひむか7名(22.6%)+他支部2名+ゲスト2名+
会員企業4名

12月望年会

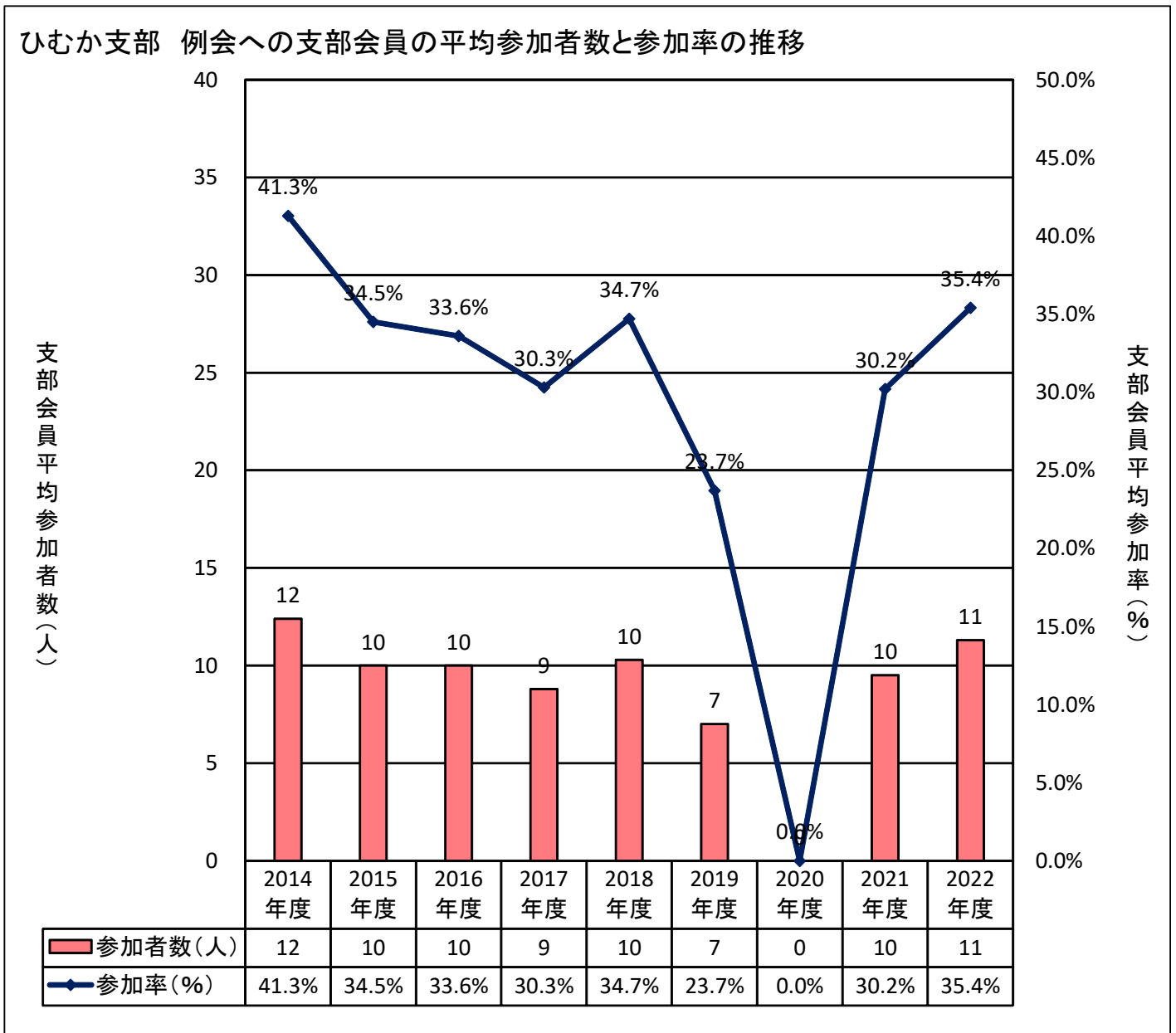
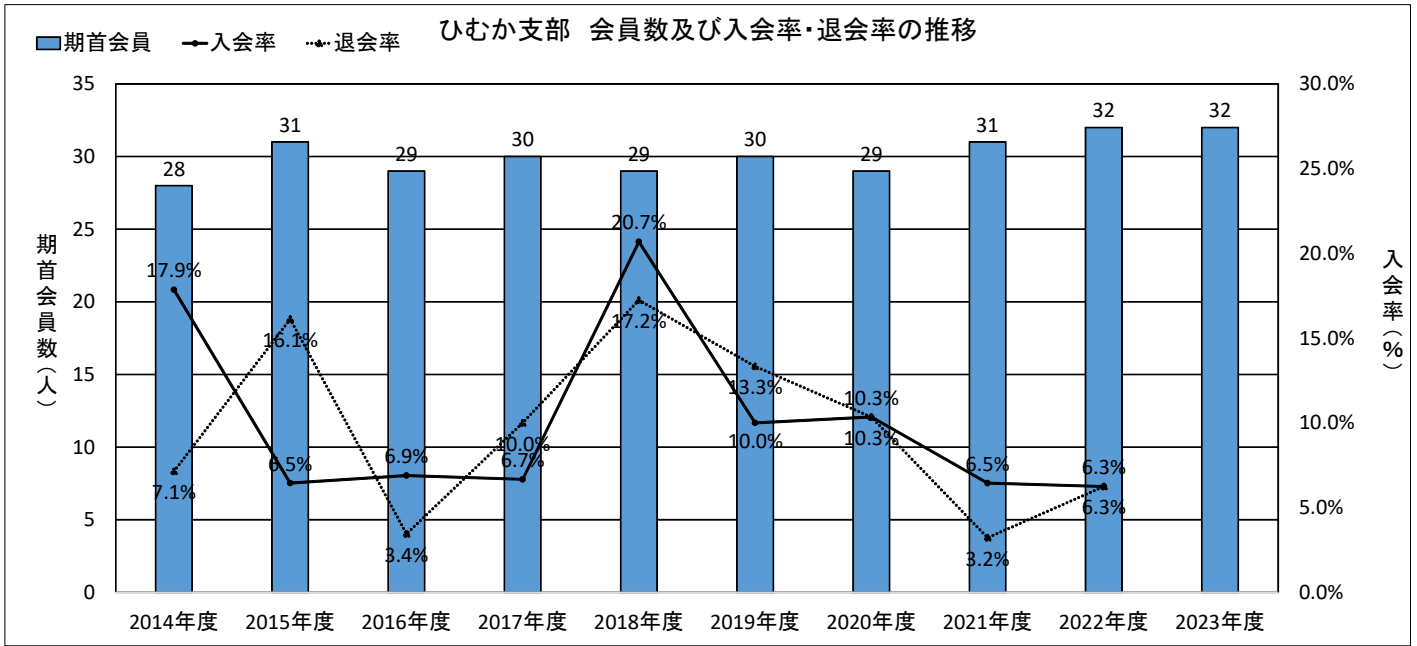
12月7日(水) カフェレストランHatsuneで 10名
内訳：ひむか9名(29.0%)+ゲスト1名

3月交流会

3月15日(水) 高鍋町中央公民館で 5名
内訳：ひむか5名(15.6%)

3. 幹事会の記録

- 第1回 5月18日(水) 萩四季亭で
参加：4名(80.0%)
- 第2回 6月1日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)
- 第3回 7月6日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)
- 第4回 8月3日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)+フォーラム実行委員1名
- 第5回 9月7日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)
- 第6回 10月5日(水) Zoom会議で
参加：4名(80.0%)
- 第7回 11月2日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)
- 第8回 12月7日(水) カフェレストランHatsuneで
参加：4名(80.0%)
- 第9回 1月6日(金) Zoom会議で
参加：5名(100%)+フォーラム実行委員長
- 第10回 1月26日(木) わか寿司で
参加：3名(60.0%)+次期幹事予定者1名
- 第11回 2月7日(火) Zoom会議で
参加：5名(100%)
- 第12回 2月17日(金) 新富町総合交流センターきらりて
参加：4名(80.0%)+次期幹事予定者1名
- 第13回 3月1日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)+次期幹事予定者1名
- 第14回 4月5日(水) Zoom会議で
参加：5名(100%)+次期幹事予定者1名
- 第15回 5月8日(月) Zoom会議で
参加：5名(100%)+次期幹事予定者1名



第2号議案 2023年度（第10期）の活動方針と活動計画（案）

活動スローガン

『新たな10年に向け、

経営と同友会活動の不離一体を示していこう！』

はじめに

2023年度も引き続き、新型コロナウイルスによる経済へのダメージや国際情勢の動き等の不確定要素が経営環境に多大な影響を与えることでしょうか。そのような中でも我々経営者は、事業の存続と発展、雇用の確保に責任を持って取り組まねばなりません。同友会での学びと実践は、その大きな手助けとなります。

私たちは、支部創設以来、以下の4項目を目指して活動を進めてきました。

- (1) 私たちは、「同友会理念」「労使見解」を自社に生かし実践し、いかなる環境変化にも対応できる強靱な企業(21世紀型中小企業)づくりをすすめています。
- (2) 私たちは、より多くの人びとが、豊かな暮らしを展開し、維持できる地域づくりをすすめています。
- (3) 「企業づくり」「地域づくり」を両輪とし、それを支える「人が育つ環境づくり」を自社や同友会内外においてすすめています。
- (4) 私たちは、支部活動を通じて、一人ひとりと向き合い、顔の見える同友会づくりをしていきます。

これらを進展させるに当たり、「強くなる」「増やす」「つなぐ」の観点から2023年度(第10期)の重点活動項目をまとめました。

1、「強くなる」

いかなる環境変化にも対応できる強靱な企業(21世紀型中小企業)づくりを目指す私たちは同友会の学びを実践して結果を残していかなければなりません。会内外から一目置かれる存在となります。

1) 経営指針の成文化と実践の推進、

互いの経営体験の交流の場の充実。

会員同士での経営指針の交流を深めることを通じて、各社が経営指針の見直しを図り社員と共有化する活動を進めます。

新会員や会歴の浅い会員に指針経営の重要性を伝えるため、知り合う会等で指針経営について学ぶ場づくりをしていきます。何のために経営指針を成文化するのかを改めて問いかけ共有します。

経営指針づくりやそれを生かした経営をテーマとする例会を開催します。

2) 地域に若者を残す活動の推進

2021年度からこゆ財団との交流を継続しており、地

域の学校などに対して地元中小企業の魅力を発信する活動を探っていきます。また、Uターン等の中途採用者にとって魅力ある企業づくりと情報発信にも努めていきます。

また、2022年度に引き続き、宮崎北高校普通科1年生との「地元企業研修」が8月からスタートします。高校生が地元企業について研究を行い、我々企業に自分たちが考えたSDGsを提案し、具体的な取り組みについて一緒に考えていきます。地元企業を高校生に知ってもらう機会です。地域に若者を残す活動の一環として取り組んでいきたいと思います。

3) 全国へ、県全体へ学びの視野を広げます

オンラインでの開催が一般になった今、全国行事や中同協行事への参加のハードルはかなり低くなりました。しかし、参加は一部に限られており、会員への拡がりには欠けます。せっかく得た学びを会内で共有できるよう交流会等で報告や意見交換を行っていきます。

2、「増やす」

同友会で一緒に学び実践する仲間を増やすことで地域の活性化に貢献します。また、関わる人が増えることで会活動の質向上と幅の拡大を図ります。

1) 広報・発信を強化します。

支部の活動が会員に十分知られているとはいえない現状です。SNSでより多くの会員に活動内容を発信します。広報戦略委員会を中心に学びや交流の雰囲気伝えていきます。

一方で、会員訪問や小グループ活動による直接的な交流にも継続して力を入れていきます。会員の悩みやニーズをくみ取っていきます。

2) 会員が参加したくなる活動の展開

例会を4回開催(内、1回は青年部会との合同例会)します。同友会の基本である経営指針経営、共育ち、仕事づくり等をテーマとします。例会への会員参加率40%以上、各回ゲスト3名以上を目標とします。

また、会員間の交流を深める目的で知り合う会・交流会を開催します。気軽に参加できる雰囲気の場を設けることで参加者を増やします。2022年度まで開催していた学習会については、4回の例会づくりに集中するため、現時点では予定しておりません。

3) 地域内での会員の組織率を高めます。

期末会員数35名を目指します。

会歴の浅い会員でもゲストを誘いやすい様に知り合う会・交流会を企画して、例会への参加に繋げていきます。会員はそれぞれ、商工会議所、商工会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等にも所属しています。経営について学びたいければ同友会という意識付けをすることで、

ゲスト獲得につながると考えます。

4) 青年部会との合同例会の開催

2022年9月に開催された青年部との合同例会においては、ひむか支部単独の例会と比較して、①多数の参加者による活力、②つくり込みに多くの人と時間をかけた質の高い例会づくり、が実現したと考えます。支部会員やゲストにこの雰囲気を提供するために、2023年度も青年部との合同例会を開催します。開催月はフォーラム参加ゲストを入会につなげる機会とするために11月に開催を予定します。

3、「つなぐ」

横のつながり(会員企業同士、他団体、産官学金)と縦のつながり(各企業の継続発展、同友会づくりと地域づくり)を築きます。

1) 産官学金及び他団体との連携

2022年度は、高鍋信用金庫から報告者を招いての例会開催や高鍋町長による例会報告、宮崎北高校とのSDGs学習会への参加が実績として挙げられます。

高鍋信用金庫には次世代経営者の会があり、活動を通じて交流を深めていきましょう。

2) 持続可能な組織運営に取り組みます。

地区活動や交流会など気軽に参加できる雰囲気の場を設けることで参加者を増やします。

■活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県行事	県総会					
支部行事			例会	交流会	暑気払い	例会

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
県行事	フォーラム			新春経営者交流会		
支部行事		例会 (青年部会合同)	望年会		例会	交流会

地区活動について、尾鈴地区、高鍋地区、新富・西都地区(もしくは合同)で月1回以上集まり、会員訪問やランチミーティング等を実施します。

地区会と並行して、テーマや委員会活動毎にグループを設けます。共通する課題や興味を深めて行きます。例会や学習会づくりにもつながると考えます。小グループ活動(地区別、テーマ別)、新会員オリエンテーション開催の担当者を明確にして活動の継続を図ります。

支部会員が気軽に参加できる親睦交流会を定期的で開催します。

例会づくり等の運営に携わる会員を増やすことで、自主運営ができる体勢を整えていきます。

ひむか支部、そして宮崎同友会を支える人材を育てていき、支部幹事や理事を継続的に選出していける体制をつくります。

3) 10年後のビジョンを描きます。

ひむか支部が10年後にどうありたいか？会員企業各々、地域との関係性を考慮して支部設立から10年の節目にこれからの10年後を考えていきます。

2025年度のみやざき中小企業経営フォーラムをひむか支部にて設営するという目標に向けて、2022年度に作成下3ヶ年計画(幹事会で共有)の見直し、そして実現への取り組みを行っていきます。

第 3 号議案 2023年度(第10期)ひむか支部幹事の選出について

【2023年度(第10期)ひむか支部幹事推薦名簿】

(敬称略 氏名50音順)

- | | | |
|----------------|-----------|------------------|
| 1. 小原農園 | 代 表 | 小原 拓也(高鍋地区)・新 |
| 2. (株)島子商店 | 代表取締役会長 | 川上 幸子(尾鈴地区)・再 |
| 3. (有)齊田商事 | 代 表 取 締 役 | 齋田 知明(西都・新富地区)・再 |
| 4. (有)日高設備工業 | 代 表 取 締 役 | 日高 憲一郎(尾鈴地区)・再 |
| 5. あんしんサポート(株) | 代 表 取 締 役 | 平山 雅史(尾鈴地区)・再 |
| 6. (株)松浦牧場 | 取 締 役 | 松浦 千博(西都・新富地区)・再 |

第 4 号議案 その他

MEMO

同友会の理念

● 三つの目的 ●

1. よい会社をつくろう

同友会は、広く会員の経営と知識を交流して、企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくることをめざしています。

2. よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3. よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

● 自主・民主・連帯の精神 ●

- 自主：会員経営者の自主性を尊重し、他のいかなるところからも干渉や支配を受けません。
- 民主：会員の要求や意見にもとづいて会の運営をし、民主的なものの見方や考え方を積極的に広めていきます。
- 連帯：経営者として全人格的完成をめざしての会員同士の相互の高まりあいから生まれる深い信頼を大切にし、あらゆる階層の人たちと手を取りあっています。

● 地域とともに歩む中小企業 ●